



伊藤まさひろ県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

カミツキガメ313頭を駆除(19年度)

印旛沼環境対策に積極的取り組み

佐倉市特集 6月県議会一般質問



本会議場で堂本知事に質問する伊藤昌弘県議

昨年四月の県議選で初当選した伊藤昌弘(51歳・千葉県佐倉市)は、六月県議会の本会議場で早くも二度目の一般質問に登壇し、印旛沼の環境問題と水質浄化対策、五年に一度は水害に見舞われる高崎川の河川改修、工口農業など幅広く地域の課題を取り上げ、県執行部に改善を迫りました。

一般質問の要旨を、2面で特集します。伊藤議員 印旛沼流域に生息するカミツキガメの現状はどうか。また、今後どのように駆除に取り組んでいくのか。環境生活部長 カミツキガメは、生態系や人に被害を与えることから、輸入や飼育等が禁止されている「特定外来生物」に指定されています。平成十六、十七年度に実施した生息状況調査では、印旛沼流域には約千頭の親ガメの生息が推定されました。県は昨年度、防除実施計画を策定し、捕獲事業を実施しまし

た。その結果、印旛沼流域では市町村による捕獲を含め、平成十八年度の捕獲数が三十五頭だったものが、十九年度は三百三十三頭と大幅に捕獲数を増やすことができました。カミツキガメには天敵がおらず、減少させるためには継続的な取り組みが必要で、今後ともモニタリング等による生息状況の把握に努め、効果的な駆除を実施していきます。伊藤議員 印旛沼の水質浄化対策に現在どう取り組んでいるのか。今後、取り組もうとしている対策は何か。県土整備部長 沼へ流れ込む汚濁負荷量を削減することを目的に「湖沼水質保全計画」を策定し、下水道整備や高度処理型合併処理浄化槽への転換を図るとともに、市街地や農地などから発生する汚濁を削減するため、

治水対策 佐倉高校で工事 雨水貯留浸透施設

伊藤議員 印旛沼流域における流出抑制策の進捗状況と佐倉高校の雨水貯留浸透施設の設置状況と今後の見通しはどうか。県土整備部長 流出抑制対策の一つとして、国・県・流域市町村等で構成する水循環健全化会議で定めた「緊急行動計画」に、雨水貯留浸透施設の設置が位置づけられています。佐倉高校については、学校側との協議が整ったことから、今年の夏休み期間中に工事を実施してまいります。さらに今年度は四街道高校の整備も予定しています。伊藤議員 高崎川の河川改修の進捗状況と今後の見通しはどうか。県土整備部長 鹿島川合流点から市街地の錦木橋までの約2キロを重点区間として優先的に整備を進めており、今年度末までに城南橋までの約1・6キロ区間の完成が図られる予定です。今後、樋之口橋の改築や護岸整備を行い、平成二十三年度を目途に重点区間の改修を進め、残る上流区間も早期に事業効果が発揮されるよう整備を進めてまいります。

文教常任委員会副委員長に就任

伊藤まさひろ・PROFILE

- 略歴
- 昭和30年12月25日 佐倉市に生まれる
- 昭和53年3月 日本大学法学部卒業
- 平成7年4月 佐倉市議会議員に当選(2期を務める)
- 平成19年4月 千葉県議会議員に当選
- 現職
- 千葉県議会 文教常任委員会副委員長
- 自民党千葉県連組織委員会委員
- 〃 広報委員会委員
- 自由民主党佐倉市支部幹事長
- 佐倉市表町防犯防災協会会長
- 佐倉青年会議所OB会会員

まちづくりに関する 悩みごと(気軽に)ご相談下さい!!

伊藤まさひろ 県議事務所

〒285-0811 佐倉市表町3-6-28
TEL.043-485-8019
FAX.043-486-1616

エコ農業で印旛沼水質浄化

新たな循環型農業の構築を

伊藤議員 印旛沼の水質浄化のためにも「ちばエコ農業」をより一層推進すべきと思うがどうか。堂本知事 印旛沼と農業の関係は、常々大切だと思っ



自席から再質問をする伊藤昌弘議員

ています。印旛沼周辺の農業は、昔から自然のありようを田んぼという形で、大変上手に日本の農業の中に自然循環を取り入れることに長けていたと思っ

今の時代、農業も機械化され、人工的になっていいますが、もう一回、エコ農業や有機農業を大事にし、新しい循環型の農業を構築することによって、印旛沼の水を浄化することにもつながるのではないかと思

推進するために、近く設立が予定される「ちばエコ農業生産者協議会」と連携し①量販店や市場関係者との情報交換及び商談会の開催②販売促進のための生産情報発信③県民の理解促進のためのシンポジウムの開催などを積極的に推進してまいります。

有機農業に新支援策

機械施設への助成など

伊藤議員 本年度の新規事業に「有機農業支援事業」が予算計上されたが、農業者にどのような支援を行うのか。堂本知事 農業が千葉の自然の中で果たしている役割は、限らないものがありま

次世代に引き継いでいけると思います。新規事業の内容は①有機農業希望者が実践者から技術を習得する研修への支援②土づくりなど有機農業に必要な簡易な機械施設等への助成③有機農業に関する調査研究や技術普及のための交流会の開催などです。



閉会後の議場で堂本知事と親しく話す伊藤議員

204法人が方針未定

公益法人新制度への移行

伊藤議員 平成十八年にいわゆる「公益法人制度改革関連三法」が成立し、本年十二月から施行され、本年千葉県が所管している四百五十七公益法人のうち、新制度の公益法人に移行するのはどのくらいあるのか。移行に問題はないか。総務部長 昨年八月に調査

法人は方針が決まっていないう、という結果でした。今後は、十二月一日の法施行に向け、千葉県公益認定等審議会において、いわゆる公益認定等ガイドラインを策定・公表し、法律などに規定する公益認定の基準について、運用を明らかにすることとしています。また、移行に向けた説明会を十月下旬に開催します。

ゆめ半島千葉国体の行事

伊藤議員 二〇一〇年のゆめ半島千葉国体に関連し、デモンストレーションとしてのスポーツ行事の取り組み状況はどうか。国体・全国障害者スポーツ大会局長 競技団体・会場地市町からの開催希望をもとに、ゲートボール、ウォークラリー、ターゲットバードゴルフなど現在までに県下二十市町において、二十五競技が行われる予定です。これらのスポーツ競技は、国体の開催機運の盛り上げと県民のスポーツへの参加を促す絶好の機会です。県としても、広報活動に努め、多くの県民がこのスポーツ行事に参加、交流することで、国体に参加した感動を実感できるよう取り組んでまいります。

財源不足への懸念を表明

6月定例県議会で最大会派の自民党からは皆川輝夫議員(鎌ヶ谷市選出、四期目)が代表質問に登壇しました。皆川議員は、財政問題を第一に取り上げ、本年度は当初予算段階でも百四十五億円もの財源不足のうえ、原油価格の高騰や幅広い物価の値上がりで日本経済に暗い影を落としているなかで、今後予定した税収さえ確保できないのではないかと懸念から厳しい財政運営を質しました。また、羽田空港の国際化問題での知事の姿勢を厳しく質すとともに、成田新高速鉄道の開通に伴う北総鉄道との運賃格差問題や特急待ちによる利便性の低下などを指摘し、県当局の取り組みを求めました。

○佐倉市特集○ 6月県議会一般質問

ふるさと佐倉のために

伊藤まさひろ 昌弘 県議